



有蘭 亮子 さん (31)

まくひとしごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.7

EQRIO/千代田町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人をご紹介します。今月は、株式会社EQRIO取材しました。



現在、本市のふるさと納税業務の委託先として返礼品の受注管理や紹介サイトの作成などの業務を行っている株式会社EQRIO、そこに勤めるのが有蘭亮子さんです。幼い頃から絵を描くことが好きだった有蘭さんは、学生時代は美術部に所属し、高校卒業後は美術を学ぶため短大に進学しました。短大では布を染める染色を専攻し、色彩や図柄の配置などについて学びました。短大卒業後、販売関係の仕事を経て、昨年よりEQRIOで働き始めます。昨年は主に受注管理や地元事業者の特産品を返礼品に登録する業務に携わってきました。地元事業者の方と接する中で、「自分の商品に対する情熱

も積極的に取り組んでいます。コロナにより以前から国が推奨してきたリモートワークが進み、移住傾向が強まっているようですが、私は枕崎が移住先として選ばれるのも良いのでは？と思っています。リモートワークと半分は農業というモデルも成り立ちそうです。先日、共生・協働推進がこしま自治体ネットワーク会議でのオンライン講習がありました。その中で、経済成長が停滞している時代には、協働が必要であるというお話がありました。協働という言葉は私にはあまり馴染みがなかったのですが、おそらく市民の皆さんはごく一般的にされていたことだと思っています。例えば、公民館単位で行われる草払い、地域活動などを狭域の活動と呼び、広域の活動は市役所のサービス類を指すようです。私たちが住むまちのことを行政だけに任せるのではなく、自分達でデザインし、多くの人が楽しく過ごせるまちをつくれるようになると思います。その一つに毎年行われるきばらん海があるかもしれません。今年は開催されませんでした。昨年のお祭りを体感し、枕崎の人達には自分達で物事を築き上げていく力があると感じました。私も新しい環境に柔軟に対応しながら、市の活性化につながる活動ができればいいなと考えています。

やパワーに圧倒されたこともありましたが、とても勉強になりました」と振り返ります。また、「鯉節やお茶などはもちろんフルーツなど、今まで知らなかった枕崎の特産品にも触れ、地元枕崎のさらなる魅力を知りました。今年から返礼品の写真を撮り、加工して画像作成を行う業務を担っています。自分の学んできたことを生かせる反面、「正解がない」と話すこの仕事は、自信作の画像を掲載した商品があまり売れなかったことも。その度に難しさを感じつつも、自分で手ごたえを感じた画像の商品の売り上げが伸びて結果を残せた時は、この仕事の楽しさを感じます。「地元の特産品を全国にPRできる仕事、やりがいには十分あります」と話す有蘭さんは、新たにマイカメラを購入し、写真の腕にも磨きを掛けます。

今後の目標は「ふるさと納税をとおして、もつとたくさんの方に枕崎を知ってもらい、地元事業者の皆さんに貢献すること。そして、寄附者の皆さんにも枕崎に寄附してよかったです」と話します。



今月の担当は 中崎隊員です!



地域おこし協力隊 活動レポート

協力隊が行く!

こんにちは。地域おこし協力隊の中崎千晶です。

厳しい暑さが和らぎ、少しずつ秋の訪れを感じられるようになってきました。皆さんはどんな「〇〇の秋」を楽しみますか？

今年にはコロナに始まり、長雨、台風と色々な災害が続いていました。

台風10号では、私の竹のハウスの骨組みは残りましたが、ビニールが剥がれ落ちてしまいました。また、露地の作物も3分の1程度はなぎ倒されていました。私が畑を始めてから、農業の難しさと食の大切さを実感することが多くなりました。今まではなんとなく、今年は異常気象かあぐぐらいでしたが、気候のことも気にかかると、コロナについてもどのような新しい様式で社会が構築されていくのか、農業についてはその新しいニーズに合う作物や加工品は何があるかなど、考えることが多くなっています。さまざまな変化に対応する力が求められているように感じます。

「コロナ禍で思うこと」

地域おこし協力隊が目指す一つの目標として「起業」というキーワードがあります。自分自身の持続可能な生活と地域での持続可能な事業をつくりたいという意識です。コロナが発生し、今まで通りの方法が通用しなくなりました。インターネットなどの異なる手法を用いていかなければなりません。私たち地域おこし協力隊は地域の活性化と定住を目指す立場です。現在、私は地域の女性の方々と共にハーブを活用した食品の開発に

も積極的に取り組んでいます。コロナにより以前から国が推奨してきたリモートワークが進み、移住傾向が強まっているようですが、私は枕崎が移住先として選ばれるのも良いのでは？と思っています。リモートワークと半分は農業というモデルも成り立ちそうです。

協働のまちづくり

先日、共生・協働推進がこしま自治体ネットワーク会議でのオンライン講習がありました。その中で、経済成長が停滞している時代には、協働が必要であるというお話がありました。協働という言葉は私にはあまり馴染みがなかったのですが、おそらく市民の皆さんはごく一般的にされていたことだと思っています。例えば、公民館単位で行われる草払い、地域活動などを狭域の活動と呼び、広域の活動は市役所のサービス類を指すようです。私たちが住むまちのことを行政だけに任せるのではなく、自分達でデザインし、多くの人が楽しく過ごせるまちをつくれるようになると思います。その一つに毎年行われるきばらん海があるかもしれません。今年は開催されませんでした。昨年のお祭りを体感し、枕崎の人達には自分達で物事を築き上げていく力があると感じました。私も新しい環境に柔軟に対応しながら、市の活性化につながる活動ができればいいなと考えています。

市長

コラム

vol.19

台風10号、そして避難行動。

9月6日未明、本市に最接近した台風10号は、住家被害をはじめ、事業所建屋被害、農作物被害、農業施設被害、道路被害など多くの被害をもたらしました。被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

今回の台風は、発生当初から特別警報級の強さで接近することが予想され、厳重な警戒を必要とするものでした。市では、早期に対策準備会議を開き、台風の襲来に最大限の警戒準備を進めました。対策本部を組織する職員を招集して、まず私が職員と共有したことは、台風が通過したあとのことを全員でイメージすることでした。一番望ましい状況とその次の段階、そして最悪の状況、それを対策本部職員でイメージし、それを全職員で共有しておくように指示した上で最悪の状況にならないように、市民の命を守ることを第一に対策を取ってまいりました。

これまでにない規模の高潮や高波、そして大雨が予想され、想定を超える災害が起こる恐れがありましたので、すべての市民が台風の襲来を安全な場所まで過ごしてもらったことが、最悪の状況を引き起こさないための一番の対策と考えました。そのためには沿岸部、河川流域に住む市民に避難をしていただくことが重要であるということに念頭に避難を呼びかけました。人間には迫りくる危険を過小に評価して平穏を保とうとする「正常性バイアス」という心理が働き、避難を躊躇してしまう傾向があります。そのため多くの方の避難を促すために避難所の開設情報を前日に流したり、避難当日も何度も避難の呼びかけをしたり、私の声で直接避難を呼びかける防災無線放送など、できる限りの呼びかけを行い、結果的に500名を超す市民の皆様が避難をしていただくことができました。人的被害が無かったことは本当に良かったです。市民の皆様を命を守る行動に心から感謝いたします。今後も、しっかりと防災対策に取り組めます。ここ数年、異常気象等による自然災害が全国的に続いており、これからも緊張感をもって取り組んでまいります。



・市民ギャラリー) ●観覧料 無料



▲山口長男さんの作品

【芸能部門】 ●日程 11月3日(火・祝) ●会場 市民会館大ホール ●時間 午前10時～正午

抽象絵画の先駆者 ~山口長男展

1956年にベネチアビエンナーレに日本代表として出品するなど、日本抽象絵画の先駆者として国際的に活動した山口長男の展覧会を開催します。

南浜館の収蔵品の中から、油彩画、水彩画作品のほか、貴重な陶器の絵付け作品を展示します。 ●会期 11月8日(日)～12月6日(日) ●会場 南浜館(第2展示場)

南浜館臨時休館のお知らせ

南浜館床面塗装工事に伴い、南浜館を下記の期間臨時休館します。

●期間 10月22日(木)まで

第54回枕崎市総合文化祭

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、規模を縮小して開催します。芸能部門は、ビデオ放映により実施します。

【展示部門】 ●会期 10月24日(土)～11月3日(火・祝) ●会場 南浜館 ●展示品 絵画、写真、陶芸、書道、生花、学習成果作品など ●観覧料 無料

南浜館 イベント情報

開 9:00～17:00 ※入館は16:30まで 休 毎週月曜日 ※月曜日が祝祭日の場合は翌日 問 TEL72-9998